

豊かで 伸びやかに そしてたくましく



スカウト みやぎ

No.31

発行

日本ボーイスカウト宮城県連盟

発行日

平成24年7月31日



平成 24 年度宮城県連盟年次総会開かれる

平成 24 年度の年次総会は、5 月 13 日、仙台地区の担当で泉区にある泉社会福祉センターを会場に開催されました。

午後 1 時 30 分より開会式が行なわれ、鈴木事務局長の進行により連盟長の式辞を郷家副連盟長の代読により出席された団代表者に伝えられました。年次表彰は千葉県コミッショナーの進行で行われ、県連盟褒状（精励スカウト）の表彰は 15 名のうち当日出席されたスカウトに贈られました。善行綬、感謝状、特別有功章、有功章と続き、昨年度の登録人数よりスカウト加盟員数増加達成団の 6 ヶ団に褒状が贈られました。また、今年の日本連盟全国大会で、功労章「たか章」に中鉢宏県連名誉会議議員、「かっこう章」に佐藤友秀県連理事が受章される旨の報告が行なわれました。さらに、来賓を代表して県教育委員会教育長に代わり、社会教育主事の元木氏が祝辞を代読されました。

開会式が終了した後、年次表彰受章者の記念写真撮影が行われその後会議が開始されました。議長は仙台地区の白根澤健氏（仙台第 30 団団委員長）が選出務められました。白根澤議長の進行で議案審議に入り、昨年度の事業報告である第一号議案から、来年度からの県連盟分担金一部改正の第六号議案まで滞りなく審議され、全ての審議事項が承認されました。

閉会式を迎える平成 24 年度の宮城県連盟の運営が 25 年度に向かってスタートいたしました。

平成24年度 県連盟表彰

敬称略

県連盟 褒状（精励スカウト）

富士章スカウト No.2335

工藤 知宏（泉第2団ベンチャースカウト隊）

菊章スカウト No.802

803

804

805

806

807

808

809

810

811

812

813

814

815

佐藤 航（名取第1団ボーイスカウト隊）

長田 直樹（仙台第35団ボーイスカウト隊）

菊地 大（名取第1団ボーイスカウト隊）

川村 悠（仙台第1団ボーイスカウト隊）

浅見 莉子（仙台第1団ボーイスカウト隊）

百々 愛永（仙台第11団ボーイスカウト隊）

鈴木 朋也（塩釜第1団ボーイスカウト隊）

村上 友理（仙台第28団ボーイスカウト隊）

佐藤 希海（岩沼第1団ボーイスカウト隊）

千坂 拓央（多賀城第2団ボーイスカウト隊）

青木 鈴奈（石巻第2団ボーイスカウト隊）

遠藤 由佳（石巻第6団ボーイスカウト隊）

斎藤 聖弥（仙台第28団ボーイスカウト隊）

佐藤 健伍（塩釜第1団ボーイスカウト隊）

県連盟善行綬

名取第1団ボーイスカウト隊（長年にわたり、介護施設体験プログラムに取り組んだ）

県連盟感謝状

安達 清守（元県連盟名誉会議議員）

山田 清八（元県連盟名誉会議議員）

新沼 壽一（元県連盟理事）

山田 洋司（元県連盟理事・元県連盟事務局長）

県連盟特別有功章

菊池 英喜（岩沼第1団団委員長）

県連盟有功章

佐藤 恵（仙台第1団BVS隊長）

白根澤 健（仙台第30団団委員長）

吉田 健次郎（仙台第41団BS隊長）

高橋 篤（名取第1団RS隊長）

佐藤 衛（塩釜第1団VS副長）

・地区コミッショナー

小笠原 喜美子（塩釜第1団BS隊長）

県連盟褒状（団）対前年度スカウト加盟員増加達成団

仙台第1団（団委員長 和田 岳生）

仙台第37団（団委員長 平岡 威）

岩沼第1団（団委員長 菊池 英喜）

塩釜第1団（団委員長 郷家 照夫）

多賀城第2団（団委員長 松本 康男）

涌谷第1団（団委員長 山路 良一）



宮城県連盟「信仰奨励章指導者研修会」が開催されました。

プログラム委員会委員長 菅野 宏彦



6月9日（土）、仙台市広瀬市民センターに於きまして、県連盟プログラム委員会と指導者養成委員会の合同主催による信仰奨励章指導者研修会が開催されました。当日は、各地区的ビーバー隊からベンチャー隊まで21名の指導者が参加されました。

初めに中橋指導者養成委員長より、今年から改定された新指導者訓練体系への移行措置について説明がありました。

今後ウッドバッジ研修所は「隊指導者基礎訓練課程」として、安全セミナーの受講、スカウトスキルの習得、ウッドバッジ研修所修了、この3つを完修してウッドバッチャーとなります。

続いて信仰奨励研修の第一部では、千葉県連盟コミッショナーより、信仰奨励章の取り組みと進め方について説明があり、第二部では各部門のグループに分かれてスカウツオウンの進め方について事例を話し合い、それを参加者の前で実演して頂きました。

参加者からは「他のグループの実例を見ることで、いろいろな進め方があることが分かり大変参考になった。今までスカウツオウンを難しく考え過ぎていたので、今回学んだことを集会の中で生かしてみたい」と感想が述べられました。

昨年のベンチャーデ部分の進歩制度改定に伴い、信仰奨励章はベンチャーデで「取得が必須」、ボーイ部門でも「取得に努める」となり、ビーバー部門、カブ部門の早いうちから信仰心を育むことが必要となります。

信仰心から、思いやり、感謝する気持ち、敬う心が育ちます。ボーイスカウト運動の柱である「心の教育」「人格の育成」に積極的に取り組んで頂きますようお願い致します。



女性トレーナーとして

日本連盟副リーダートレーナー 鈴木 美恵子（鹿島台第1団 団委員）

トレーナーは、指導者訓練機関の運営と実施を担当していますが、その任務の一つに指導者が行う自己研修への個別支援があります。

特に研修所や実修所への参加の支援を行います（ボーイスカウト研修ノートより）。

私が前県連盟コミッショナーとディレクターに声を掛けて頂き、副リーダートレーナーコース（ALTC）に参加して、トレーナーの役務についてから6年目になります。

ボーイスカウト運動に女性が参加するようになって久しいのですが、宮城県連盟では女性のALTは私で3人目であり、東北ブロックでも岩手に1名、秋田に2名、山形に1名と数は決して多くありません。ですから、声をかけて頂いた時、本当に私で務まるのかと悩みました。しかしながら、せっかく頂いたポジションを女性指導者に繋いでいくことも私の役目と考え、現在に至っています。

研修に参加することは、必要と分かっていても、男性でも仕事や家庭においての調整が震災後は益々大変になっているのではないかと感じています。ましてや女性が家を空けるということは、ご主人やご家族の協力なしでは難しいことです。そういう思いで参加してくださった方々をサポートし、健康で安全に受講して頂くことが役割と考えております。

平成24年度も「ウッドバッジ研修所ボーイ課程宮城第16期」と2回の「ボーイスカウト講習会」が終了し、10月6日～8日に「ウッドバッジ研修所ビーバー課程宮城第8期」が開催予定です。スカウトの為、自己研鑽の為に一人でも多くの指導者の方々に参加してもらいたいと思っています。

最後に、何年掛かるか分かりませんが、スカウト経験のある女性トレーナーが宮城県に誕生することを期待したいと思います。

愛知県連盟尾張地区からベンチャー隊激励訪問と交流



去る5月3日より5日まで蟹江第1団、美和第1団、津島第2団のベンチャー隊が中心となり32名が来石しました。

5月2日（水）21時現地をバスにて出発5月3日（木）早朝石巻到着の予定でしたが、東京を経由したことや大雨のため12時頃到着、13時から石巻復興支援協議会において被災状況等を「語り部」の方から伺いました。午後からは日和山鹿島御児神社のご好意により、神社地内にテントを設営し野営の予定でしたが、大雨のため中止し、市内中里第二会館にて石巻第6団ベンチャー隊・ボーイ隊との交流を行いました。

5月4日（金）は前日からの大雨で市内中心街は冠水し道路の一部が通行不能となりましたがバスで水産加工団地等を見学し、津波が7mも押し寄せた現地の惨状に全員が声も出ない様子でした。

その後、天候が回復したことから被災された

石巻地区組織広報副委員長 森澤 達夫

地区の方からのご好意で被災地を間近に見られる地にテントを設営することができました。その後スカウト達は鹿島御児神社の「春の例大祭」が近いことから、山頂まで石段150段の草刈や落葉拾い等の清掃ボランティア活動を行いました。これらの活動は、氏子の多く住む門脇、南浜町地区が壊滅的な被害を受け、神社氏子役員や町内会役員が犠牲になったり、その地を離れなければならなくなったりなどの理由から清掃もままならない状況を見かねての奉仕でした。

また、野営地のご提供ご協力いただいた地元の方に近くのお寺や「土蔵」等の歴史や被災状況等のご説明をいただきました。

来石した指導者は「ベンチャー隊員が被災地でのキャンプ体験は将来大きな糧になる。一日も早い復旧復興を祈ります」と述べられ5月5日（土）帰路につきました。



仙台子供まつり開催

好天に恵まれた5月27日（日）仙台市太白区内の三神峯公園にて第42回仙台子供まつりが開かれ、ボーイスカウト・ガールスカウト他15団体が参加しました。

『昔ながらの遊びにふれたり・・・普段出来ないことを思う存分やってみませんか・・・』という呼び掛けのチラシが会場近くの小学校に配布されました。その効果もあったのか、200人程の子供達が集まりました。

ボーイスカウトでは、子供達に大人気のモンキーブリッジを大木の桜の木を利用しての作業。木に傷をつけない様に、毛布やブルーシートで覆い、静かにチェーンブロックでロープを締め、ロープの高さや張り具合を見る。完成前から長い列が出来ました。モンキーブリッジの他に関所破りや結索コーナーも設けました。人手の足

仙台地区総合委員会

りない中での作業と子供達の誘導は大変でした。

来年も我々が作った遊具で遊ぶ、子供達の喜ぶ顔が見たいですね。



ボーイスカウト運動の始まりは

ベーデン・パウェル卿の書いた一冊の本から始まった



2月22日はボーイスカウトの創始者ベーデン・パウェル卿が生まれた日です。1857年、イギリスに生まれたのです。もうすでに155年も経っています。光学放射学研究の物理学者で神学者で、クリスチヤンであるB-Pの父は、神を愛する人、家族を愛し、自然研究家で、他人に親切で常に快活でユーモアにあふれた人でした。その父の影響は大きかった。B-Pは7男3女の8番目(6男)として生まれ、三男、長女、五男、次女はB-Pが生まれる前に亡くなりました。

B-Pは大学に進学せず士官学校に入学、演劇、絵画、歌、武術や話術に優れ、優秀な成績で卒業され陸軍士官として軍人生活に入り、持ち前の能力を発揮して1881年26歳で大尉に昇進、インド駐留の騎兵団を率いる司令官の副官となった。射撃や騎馬の教官として騎兵を指導し、音楽や演劇の指導もおこないました。B-Pは多技に渡る技能を身につけており、特に絵画に優れ暇を見てはスケッチを描き、プロの域を超えたテクニックでスケッチを行い、後にB-Pの書いた本にスケッチが沢山挿入され、スカウトの皆さんには当時のB-Pを思いながらスケッチを目にすることができます。

ボーア戦争で南アフリカの司令官の副官になり、1900年マフェキングで217日間ズール族に囲まれ少数の兵力と少年たちの力で守り抜き『マフェキングの英雄』としてイギリスのヒーローになりました。その功績によりイギリス陸軍で初めて若い少将に昇進し、エリザベス女王よりナイトの称号を授与されロードベーデン・パウェルオフギルウエルとなりサー(卿)となりました。

1902年より軍の仕事をしながらイギリスの少年のための興味ある本を執筆し、発行されました。そのまま少年達に提供することが出来ないことを考え、少年達が興味を持てる冒険や自然探求、動植物の生態観察、追跡、斥候法等アフリカやインドの大自然の中から得た体験や知識をまとめ、B-Pが描いたスケッチを入れ、又1907年7月にB-Pはイギリスロンドンより南にあるプール湾に浮かぶ五つの島の入り江の入り口に近い島「ブラウンシー島」で20人の少年たちを招いて実験キャンプを行い、本に書いたことを実践し、又体験したことを含めて執筆し「Scouting for Boys」が発行されました。B-Pの書いた本は戦争で崩壊した少年たちの将来社会に対する影響を考え、社会に役立つ大人を作り上げることを基盤に本を執筆発行し、多くの少年少女たちの憧れの本となり、今で言うベストセラーになってしまいました。

ボーイスカウトの始まりは、ベーデン・パウェル卿の行なったブラウンシー島の実験キャンプから始められました。ベーデン・パウェル卿の書いた本「Scouting for Boys」はイギリスの少年たちに一石を投じ、ボーイスカウト運動が始められた基になりました。

同じ1907年に陸軍中将に昇進しましたが、軍人として生き軍人でいればイギリスの国から一生恩給が出て生活することに困らないのに、40年の軍人生活にピリオドを打ちボーイスカウト運動に第二の人生を捧げました。

即ちボーイスカウト運動がブラウンシー島の実験キャンプから始まり、2007年で100年を迎えました。世界にボーイスカウト運動が始められ2007年にイギリスで100年を記念して世界スカウトジャンボリーが開催され、日本からも沢山のスカウトやリーダーが派遣され「世界ボーイスカウト創始100年」を祝い、次の100年に向かって新たにそれぞれの国の言葉で一斉に「ちかい」を唱え、ボーイスカウト運動の発展を祈念いたしました。



